

ID	
氏名	
生年月日	
年齢	性別
科名	病棟

mFOLFOX6+BV療法 ポートフリー 2週毎			
疾患名	大腸癌		
T	N	M	Stage

主治医

指導医

(身長 cm・体重 kg) 体表面積 m<sup>2</sup>

スケジュール HBs抗原 ( + - ) HBe抗体 ( + - ) HCV抗体 ( + - )

《注射》		Day1	Day2	Day14
ペバシズマブ	5mg/kg	↓		
オキサリプラチン	85mg/m <sup>2</sup>	↓		
レボホリナート	200mg/m <sup>2</sup>	↓		
フルオロウラシル ワンショット	400mg/m <sup>2</sup>	↓		
フルオロウラシル 持続	2400mg/m <sup>2</sup> /46hr	↓	… →	

オキサリプラチン

- 末梢神経障害緩和のためホットパックを使用する。
- 治療期間中は冷感刺激を避ける。(金属類との接触、冷たい食事や飲み物、エアコンの風など)

ペバシズマブ

- 投与前に血圧を測定する。収縮期 $\geq 160$  or 拡張期 $\geq 100$ を超える場合は主治医に確認する。
- 出血傾向、血栓有無を確認する。

Day1

抗がん薬投与1時間前にアプレピタントカプセル125mg1Cを内服				投与ルート
①	生食500ml	DIV	血管確保(20ml/h)	メイン
②	パロノセトロン0.75mg/50ml 1V 生食15ml	IV		側管
③	デキサート1.65mg 4A 生食20ml	IV		側管
④	ペバシズマブ ( )mg 生食100ml	DIV	初回90分 2回目60分 以後30分	側管
⑤	オキサリプラチン( )mg 5%ブドウ糖液250ml	DIV	120分	側管
⑥	レボホリナート( )mg 5%ブドウ糖液250ml	DIV		側管
⑦	フルオロウラシル( )mg 生食50ml	DIV	15分	側管
終了後メインの生食でルート内フラッシュ				
⑧	フルオロウラシル( )mg 生食250ml	DIV	輸液ポンプ 46時間	側管
				持続注射 Day1-⑧
				↓
Day2				
午前中にアプレピタントカプセル80mg1Cを内服				投与ルート
①	生食500ml	DIV	血管確保(20ml/h)	メイン

Day3

午前中にアプレピタントカプセル80mg1Cを内服 投与ルート

Day2.3 ★処方確認 17時まで病棟に薬があがっているか確認 申し送りへ記載

投与ルート